

（事例紹介）被害が顕著な特定外来生物「アライグマ*」

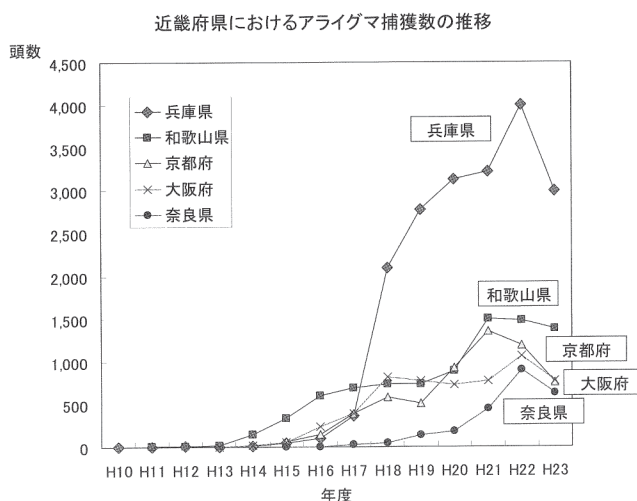
奈良県では、アライグマによる農作物被害や家屋被害が増加しています。このため、県は平成21年に「奈良県アライグマ防除実施計画」を策定し、市町村と協力しながら防除に取り組んでいます。アライグマはペットとして海外から輸入されたのですが、環境適応力や繁殖力が高く、捨てられたり逃げ出したりして野生化した個体が増加しています。

アライグマは奈良県本来の生きものどうしのつながりの中に入っていないため、長い年月の中で形成されてきた奈良県の生態系に大きな影響をおよぼすと考えられています。例えば雑食性でさまざまなものを食べるので、同じ餌を食べる生きものの餌を奪ったり、希少な生きものを食べてしまったりするかもしれません。一方、アライグマを食べる動物はもともといないため、個体数はどんどん増えます。このようにして生態系の微妙なバランスが崩れ、奈良県のさまざまな生きものが姿を消してしまう可能性もあります。そのような事態にならないように、アライグマを早急に駆除することが望まれます。これは何も考えず自然環境に放した人間のせいであり、アライグマに罪はありません。このような問題をこれ以上引き起こさないように、ペットを飼うときには野外に決して放さないという責任を持って飼うようにしなければなりません（※）。

※現在、アライグマは特定外来生物に指定されているため、許可なく飼養することは禁止されています。

○アライグマ捕獲数の推移

奈良県は近隣府県に比べアライグマの定着が遅かったのですが、定着後、生息数が急増しました。個体によっては気性が荒く、兵庫県では人にかみついた被害も発生しています。また、レプトスピラ症、アライグマ回虫症などの人にも感染する病気を持っている可能性もあるので、見かけた場合は近づかず、市町村役場に連絡してください。



（事例紹介）猿沢池のカメ

猿沢池ではさまざまな種類の外来のカメが生息しています。特にミシシippアカミミガメ ** は、近年、急増しています。一方、絶滅危惧種であるニホンイシガメはかつて多く生息していたのにもかかわらず激減し、平成17年には5匹となっています。猿沢池に外来のカメが増えている原因として、ペットのカメが放されていることなどが考えられます。

（事例紹介）下北山村のブラックバス

ブラックバスというのは、外来魚であるオオクチバス * やコクチバス * など、オオクチバス属数種の総称です。オオクチバスは全国各地に広がっており、在来魚を食べることなどにより生態系に影響をおよぼしています。下北山村の池原ダムには、昭和63年に放流されたフロリダバスと呼ばれる大型のオオクチバス亜種が定着しており、近年では周辺の湖沼・河川からも生息が確認されています。一方、池原ダムは日本有数のバス釣りの名所として知られており、バス釣りは重要な地域産業となっています。このことが、この問題をさらに複雑化させています。

（事例紹介）吉野川のおオキンケイギク *

吉野町の吉野川河川敷にオオキンケイギクが繁茂しています。観賞用や緑化植物として海外から持ち込まれたもので、見ためはきれいなのですが、在来の植物の生育を抑え込みます。多年生であるため、抜き取っても地下部が残っているとまた生えてきます。一度定着すると、完全な駆除は容易ではありません。



オオキンケイギク
(写真は奈良市の秋篠川で撮影したものです。)

(事例紹介) 広がる緑化植物

今日、シナダレスズメガヤ**、オニウシノケグサ**やハリエンジュ（ニセアカシア）**などの外来植物が、空き地、道ばた、河原、林縁などに見られます。これらは荒地や栄養に乏しく崩れやすい土壌など、一般の植物が生育できないような厳しい環境に適応するため、^{のりめん}法面緑化、砂防の材料として、あるいは街路樹として導入された外来の緑化植物です。ところが種子分散などを通じて施工地からいたるところに広がっており、希少植物を含む在来植物を駆逐するなど、生態系に深刻な影響をおよぼすおそれがあります。緑化においては、できるだけ地域の在来植物を利用するなどの配慮が望まれます。

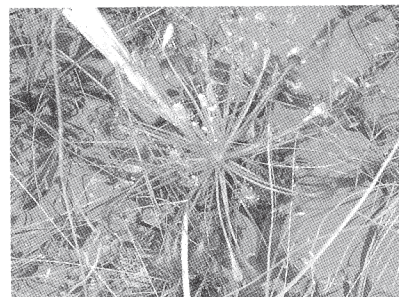
(事例紹介) 天川村のジギタリス

天川村^{どろがわ}洞川の観音峰山頂付近で、外来植物であるジギタリスが群生していることが明らかになりました。この地域には、ベニバナヤマシャクヤク、サクラスミレ、ヒロハハナヤスリなどの希少な植物が生育しています。これらの植物の生育環境がジギタリスにより損なわれる危険性があるため、「観音峰の自然を守る会」はジギタリスの駆除活動を行っています。また、天川村はジギタリス引抜きボランティアツアーを開催しています。

(事例紹介) 曽爾高原お亀池の外来モウセンゴケ

曽爾高原のお亀池は、サギスゲ、サワギキョウやミズトンボなどの希少な植物が多く生育していることから、日本の重要湿地500に選定されています。ところが、ここに外来食虫植物であるナガエモウセンゴケが生育していることが分かりました。岡山県では、ナガエモウセンゴケなど15種もの外来食虫植物が湿地で確認され問題となっています。また、ナガエモウセンゴケは環境適応力や繁殖力が非常に高いことが分かっています。幸いお亀池には数株しか確認されなかったため、県と専門家により抜き取り作業を行いました。

モウセンゴケ類は葉面に密生する腺毛から粘液を分泌し、小さな昆虫をとらえますが、ナガエモウセンゴケは在来のモウセンゴケ類に比べその分泌が著しいのが特徴です。



（４）奈良県の風土・文化や美しい景観をつくり出してきた生物多様性

奈良県には古くから自然との関わりがあり、独自の自然利用など、自然と関連した風土・風習・文化・工芸品・民俗芸能などの特徴が顕著です。また、飛鳥時代から奈良時代にかけて飛鳥京・藤原京・平城京の都があったことにより、人間が古くから自然と関わってきた歴史を語る美しい景観が残っています。

奈良盆地は唐古・鍵遺跡に見られるように弥生時代から水田農耕が発達し、文化の中心となってきました。また、日本最古の書物である古事記で「大和は 国のまほろば たたなづく 青垣 山こもれる 大和しうるはし」と詠われたように、美しい山々に囲まれています。万葉集にはサクラやツバキなど、約140種類の植物が詠われ、また、喜怒哀楽を自然の情景に託してつくられた歌が数多くあります。小野老は「あをによし 奈良の都は 咲く花の にほふがごとく 今盛りなり」と詠っています。

酒の歴史は古く、平城京から出土した木簡にも造酒のことが書かれています。長い間濁り酒でしたが、室町時代に清酒が正暦寺（奈良市）で初めてつくられました。「菩提酛」と呼ばれる酒母は、奈良盆地の米と菩提仙川の清らかで豊かな水によって生まれたものです。

また、奈良県は公共土木発祥の地といわれています。斉明天皇は飛鳥で、運河や宮殿の造営など、自然を改変する大規模な土木工事をを行ったようです。日本書紀には、斉明天皇がしばしば工事を起こし、人々はその労役の重さから批判したという記述が残っています。

自然信仰としては、御神体が三輪山である大神神社（桜井市）の例などがあります。太古から神々の住み給うところと伝えられる「高天原」の地にある高天彦神社（御所市）の背後には神体山である白雲峯がそびえ、古杉が鬱蒼とした参道は今も古代の雰囲気を残しています。春日山原始林は、春日大社の御神体である御蓋山とともに、古くから聖域として保護されてきました。そのほか、原始信仰のなごりを残す玉置神社玉石社（十津川村）や古代からの修行の地である大峯奥駈道など、歴史文化や自然環境に恵まれた質の高い景観が数多く残っています。葛城山の土蜘蛛、お亀池の大蛇や大台ヶ原の大イノシシなど、生きものに関連する昔話もたくさんあります。また、吉野の桜は天智天皇の時代より厳しく伐採を戒められ、盛んに献木されたこともあり、一目千本、桜づくしの山になったといわれています。

このように、奈良県では長い歴史の中で自然と人間の深い関わりがあり、生物多様性の恵みによって多様な文化や景観が創造・継承されてきました。しかし、現代では自然との関わりが薄れ、伝統文化が衰退していると同時に、自然への畏敬の念も失われつつあります。そのような中、平成23年に起きた東日本大震災や紀伊半島大水害によって、私たちは自然の力を再認識させられました。私たち人間は自然の一部であり、まわりの自然と協調

して生きていかなければなりません。この災害を機に自然との関わり方を考え直す必要があります。

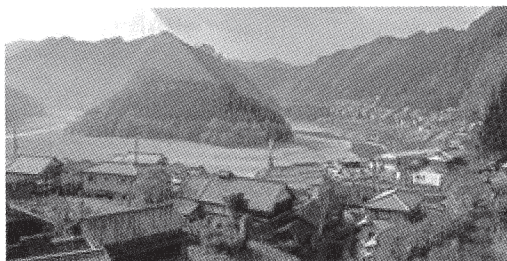
■虫送り■

日頃、殺生している虫を供養し、イネの害虫を遠くへ送り出す行為が結びついたものといわれ、昭和の初めまでは全国で行われていました。現在ではほとんど残っていませんが、天理市山田町では毎年6月16日に行われています。



水田の害虫を^{たいまつ}松明の火で駆除し、供養する行事で、天理市の無形民俗文化財に指定されています。

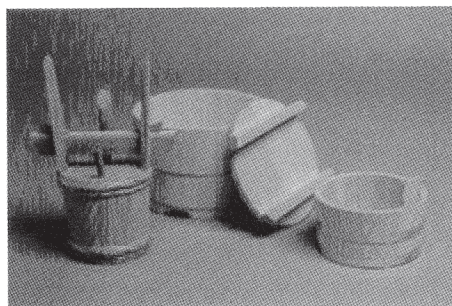
○吉野和紙・吉野地方の木製品・吉野^{くす}葛・陀羅^{だら}尼^{にすけ}助などは、地域がはぐくむ豊かな自然の恵みからつくられました。



国栖^{くす}の里

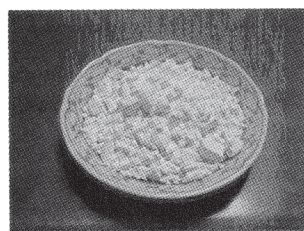
自然に恵まれたこの地域の風土が吉野^{てす}手漉き和紙を生み出しました。吉野に紙づくりを伝えたのは大海^{おほ}人皇子^{あまのわうじ}だという説も出るほど古い歴史を持っています。

(国栖の里観光協会ホームページより)



吉野^{おけ}杉^{たる}桶・樽

年輪がそろい木目が細かく美しい吉野杉を^{まさめ}柾目に割って乾燥させ、輪状に並べ、たがで締められています。



吉野葛

葛(マメ科植物)の根から得られるデンプンを精製してつくられます。^{かつこんどう}葛根湯という薬としても用いられており、薬草園でつくられていました。奈良県は古来から生薬と深い関わりを持っており、疫病に備え、さまざまな薬用植物が栽培されてきました。